

福島若者は原子力に何を感じているか ～福島夢と課題～
Feeling of Fukushima's young generation on nuclear -Dreams and Issues-

(4) 福島におけるエネルギー政策について思うこと

(4) Fukushima's contribution to energy policy

*重石 智大¹

¹日本大学 工学部 建築学科

福島第一原発事故から10年が経過した。私は事故後、福島県に暮らし続けている。この10年で私は色々なことを思い、感じながら暮らしてきた。福島県から県外に転校し戻ってこない同級生がまだいること。学校や公園にある放射線量計なども今や当たり前の風景になっていること。10年がたった今でも原発事故の遺産は街・人々の生活で色濃く残っている。

小学生だった頃の自分は原子力発電は必要ない・廃止すべきと考えていた。明確に意見した経験は当時はないが私はそう思っていた。理由は単純で「嫌」であったからである。同じ小学校の友達が挙って転校したこと、小学校最後の運動会が中止に終わったこと、半年以上体育が学校の廊下であったことなど2010年代とはあまりにもイレギュラーな学校生活であったためかそれが非常にストレスとなり「全て原発のせいだ」と考えるようになっていた。また、それはいわきに来た原発避難者にも言えていて、最初こそ「避難続きで可哀想」、「急に知らない土地に可哀想に」など思っていたが、仮設住宅に並ぶ外車の数々、スーパーでの避難者の店員に対する横暴な態度、非常に豪華な一軒家を建てたなど原発避難者の様々なエピソードを見たり聞いたりしていくうちに原発避難者に対する差別的な意識を持つようになった。それは自分だけでなく周りの友達も同様に考えていたことから、いかに差別意識が浸透していたかがわかるであろう。なお、現在は私を含めほとんどの人々は差別意識を持っていないことを留意しておいてほしい。

一方大学生となり、情報、情勢、社会的背景など様々な角度で物事を見るようになった今は、原子力発電は現代日本に「まだ」必要だと私は考えている。日本は今後、原発事故の反動や環境問題などから太陽光や風力などの自然エネルギー発電の発電割合増やし、最終的には自然エネルギーベースの社会へとエネルギー転換を図っていくことになる。しかし自然エネルギーは地産地消が最も効率的で現在の電力システムには不向きで今後本格的に導入するにはこれまでとは違った新しい電力システムを造る必要があると考える。しかし新システムを構築するにも膨大な時間が必要になるため暫くは従来のシステムのままであるが、それが火力発電に依存し続けるのは電力の安定供給や経済など様々な観点から見てもリスクが大きすぎる。よって原発を再稼働し電源構成を正常化すればリスクが減るためメリットになる。新システムに移行し自然エネルギーが十分な発電割合になった時、いままで活躍した原発を廃炉にすればエネルギー転換の成功といえると思う。最初に「まだ」とつけたのはいずれ原発がなくても賄える社会にするための布石であるからである。

私はまだ大学生で建築学科であるため専門性に欠けた議論になってしまっているかも知れないが、これが専門外の人間の考え方の一つであると思って欲しい。

*Shigeishi Chihiro¹

¹Nihon University